

殉職事案の状況を踏まえた検討事項について

【出動途上】

- 現場に到着するまでの車両内及び降車後の現場に向かうまでの道のりにおいて、隊員間での活動方針等（安全管理最優先の活動、危険発生時の合図、雨量情報、土砂災害危険箇所該当するかどうかなど）の共有・徹底を行うべきではなかったか。

【活動隊 1 隊での安全管理体制】

- 二次災害の危険性が高い土砂災害現場には、安全管理を徹底するため複数の部隊を出動させる必要がある。しかしながら、多数の現場が同時に発生した場合には消防力が劣勢となり、1 隊での活動を余儀なくされる。この場合の安全管理はどのように行うべきか。

【携行資機材】

- 車両から土砂災害現場までの距離がある場合に最低限携行する資機材として何を持参すべきか。また、今後活用できそうな新たな資機材（土砂災害遠隔監視センサーなど）があるか。

【退避場所・経路の確保】

- 住民発見後、すぐに救助活動を開始したが、救助活動を開始する前に退避場所の選定や退避経路の確認を行うべきではなかったか。

【前兆現象確認後の行動】

- 住民発見後に地響きを感じつつも救助活動を開始したが、二次災害発生の確度が高い場合には、住民に近寄る経路を厳選することや近寄らずに避難を呼びかけることはできなかったか。また、救助に向かうときにはロープによる自己確保をするべきではないか。